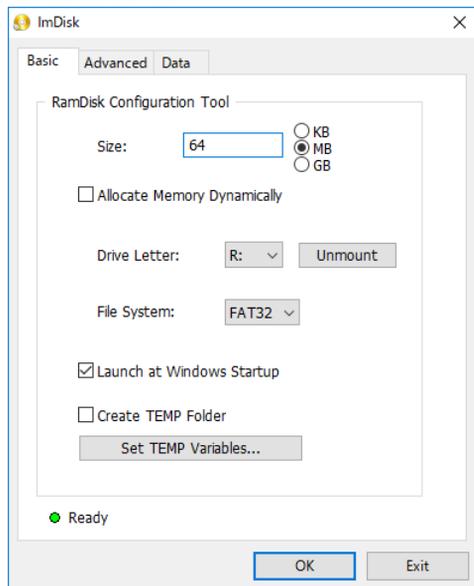


● RAMディスクの特徴

- ・RAM ディスクはPC のメインメモリの一部の領域をストレージのように利用することができます。(WTFPL ライセンス形式をとるImDisk というツールを使用しています。)
- ・RAMディスクを代替ストレージとして使用することでm-SATAの書込み回数を減らすことができます。
- ・起動時にRAMディスクを作成し、データを転送したり、シャットダウン時にRAMディスク内容をm-SATAへ保存できます。

※ RAM ディスクはWindows サービスにより作成されるため、Windows 起動直後に動作する機能には利用できません。(例:WindowsEvent ログの出力など)

● 設定画面



※詳細については、マニュアルをご参照ください。

● 設定内容

項目	設定/表示内容
Size	作成する RAM ディスクのサイズを設定します。 有効設定値 : 36, 860kByte~32GByte ※メインメモリの空き容量より大きい値を指定すると動作が不安定になります。
Allocate Memory Dynamically	チェックすると RAM ディスクが使用していない領域分のメモリを使用しなくなります。例として 1GByte の RAM ディスクを確保しているとき、RAM ディスク内にコピーしているファイルサイズが 0.5GByte であれば残り 0.5GByte 分はメインメモリとして扱われます。
Drive Letter	作成する RAM ディスクのドライブレターを設定します。
File System	作成する RAM ディスクのファイルシステムを設定します。
項目	設定/表示内容
Cluster Size	作成する RAM ディスクのクラスタサイズ(最小単位サイズ)を設定します。
Drive Label	作成する RAM ディスクのドライブ名を設定します。
Quick Format	チェックすると RAM ディスクを作成するときのフォーマットをクイックフォーマットにします。
Enable NTFS Compression	チェックすると RAM ディスクにファイルを書き込むとき NTFS 圧縮をするようになります。(ファイルシステムが NTFS のときのみに有効になります)
Use AWE physical memory	チェックすると 4GByte を超えるメモリ領域に対して AWE 機能を利用してアクセスするようになります。
Use Mount Point	チェックすると RAM ディスクのマウント先をドライブ文字ではなく任意のフォルダに設定できるようになります。
Additional Parameters	RAM ディスク作成時に追加のパラメータを設定できるようになります。
項目	設定/表示内容
Load Content from Image File or Folder	RAM ディスク作成時にロードするディスクイメージを設定します。
Synchronize at system shutdown	チェックすると Windows シャットダウン時に RAM ディスクの内容を上記ディスクイメージに保存するようになります。
Copy only file with Archive attribute	チェックするとアーカイブ属性のファイルのみをディスクイメージに保存するようになります。
Delete data removed from the RamDisk	チェックすると RAM ディスクから削除したデータはディスクイメージに保存しないようになります。
Exclude Folders	フォルダ名を記述するとディスクイメージへの保存から除外されます。
Synchronize now	クリックすると RAM ディスクの内容を即座にディスクイメージに保存します。

● 対象製品

7A IoTシリーズ	AP7A・EC7A
4A IoTシリーズ (Windows版のみ)	AP4A・APS4A・EC4A・AS4A
4B IoTシリーズ	AP4B・APS4B・EC4B
4A UPSシリーズ (Windows版のみ)	AP4A・APS4A・APL4A・EC4A・AS4A

このカタログに記載された製品は、予告なしに仕様・機能・デザイン等を変更する場合がありますので、ご採用の際には最新の情報を弊社及び弊社製品取扱販売店までお問い合わせください。

2022年1月版